

クラウド環境での 情報利用法

住田病院副院長、産業医科大学非常勤講師 八幡勝也

1. 使える情報にする

皆さんも最近クラウドという言葉が聞かれたことがあるかと思う。元は、インターネットというのは、明確な姿がないので、雲に例えた人がいて、それが広まったということである。

クラウドとは、従来各自のパソコンの中に持っていた機能、例えば、データの保存、メールソフト、ワープロソフト、表計算、などをすべてネットワーク上に移したものである。これにより、パソコンはデータやソフトウェアを抱え込むことなく、使うことが可能になる。特にiPhoneやAndroidなどのスマートフォンでパソコンのデータを使うことが可能となり、いつでもどこでもデジタル情報が利用可能となる。

また、メール、ワープロ、表計算など各種のサービスが無料に近い価格でネットワークで利用できるのも、コスト削減につながる。パソコンが盗難にあったり、新しいものに変えても、データ移行の手間がなく、極めて便利である。

その一面、クラウドサービスは、情報管理の基盤がしっかりしており、災害時などのデータ保存、セキュリティの面からも、個人のパソコンで管理するよりは、安心な仕組みとなっている。

早い話、インターネット上で提供されるサービスのことである。

最近では、このインターネット上のサービスが充実してきて、従来のサービスと分ける意味でもクラウドという言葉が使われている。

では、従来とはどのように違うかというと、

- 1, 無料もしくはきわめて安価なものが多い。これにより容易に試すことができる。気に入れば、継続して使うときに支払いをすることもあるし、より高機能のものについては有料で提供されたりしているので、サービス提供側は経済的な基盤を確保している。
- 2, クラウドサービスでは、データの保管を自分のコンピュータではなく、クラウド上で行う。つまり、自分のハードディスクやUSBメモリーに情報を保存するのではなく、ネットワーク上のどこかに保管、つまり預けるのである。
- 3, WindowsやMacintoshなどの利用機種に関係なくインターネットが使えれば、利用可能である。主に、メールかWebを使うことが多いので、機種による影響を受けにくい。最近では、iPhone,iPadやAndoroid携帯電話などでも対応ソフトが提供され、パソコンとこれらの携帯端末で情報共有が容易である。さらに技術的なことをいうと、仮想化した環境と巨大なデータ管理基盤などを必要とする。Googleなどは、安定した電源確保のために、専用の発電所まで作ったといわれている。

今回は、一般的によく使われているGmail,DropboxとEvernoteを紹介する。

2. 代表的なサービス

Gmail

検索で有名なGoogleが無料で提供しているWebで使う電子メールソフトである。Gmailでは、無料で7GB分のメールが保存できる。筆者の場合、平均して1日

図1. Dropbox の利用概念



図2. Evernote



図3. Evernote を使ったクラウド



4MB、1カ月で100MB分のメールを受けとるので、70カ月分のメールを貯めることができる計算となる。このサービスを提供するGoogleは強力な検索技術を有していて、メールの検索も高速である。なので、筆者は受信したメールを自動的にGmailに転送し、メールのバックアップとして、メールの紛失が起きないようにしていると同時に、過去のメールの検索や捨ててしまったメールを探すときに重宝している。

他にも前回、東教授も書かれていたように、原稿を自分に送ることで、原稿のversion整理ができる。ウイルスを含むSpamは、自動的にフィルタリングして除去してくれる。また、昨年中国政府による覗き見事件以来、基本的にメールの送受信が暗号化されるようになった。現在、多くの企業や大学で、自社のメール管理を

このGmailに移行して、サーバコストやメンテナンスを削減している。

Dropbox (図1)

Dropboxは、インターネット上のファイル保管システムである。つまり、あたかもネット上に自分のハードディスクがあるような使い方ができる。2GBまで無料で使用できる。

Dropboxを使うには、自分のパソコンのフォルダとオンラインでDropboxに保存できるように設定するだけである。これで、自動的にネット上にバックアップされるし、自分のパソコン間でのファイルの共有ができる。iPhoneやAndroidでは専用のアプリケーションがあり、オンライン上のデータを参照・転送できる。

例えば、仕事場のパソコンで使っていたファイルを

出張先で確認したいときなどに便利である。ファイルを修正した場合などは、自動的に更新される。

同様のサービスにSugarSyncとAppleのiDiscがある。SugarSyncは5GBが無料で使用できる。iDiscは年間約1万円かかるが、システムなどのバックアップも含む。

筆者は講演のスライドや学会発表などはDropboxに保存しておいて、万が一に備える。

Evernote (図2, 3)

Evernoteは分類上はメモ帳ソフトであるが、ありとあらゆるデジタルデータを登録・保管できることから、クラウドサービスの中で今もっとも注目を集めている。まずは、無料版について紹介する。

Evernoteは専用のアプリケーションでもWebページでも使える。まず、Evernoteのホームページで利用者登録すると、専用のメールアドレスが通知される。このアドレスが非常に重要な利便性につながる。無料版で使えるのは、通常のテキスト情報、画像情報、PDFなどの情報である。面白いのは、月当たりの情報保管容量が50MBと決められていることである。これでは、他のソフトと大きな違いはない。大きく違うのは、情報収集機能である。Webページなどで使える情報があった、これをメモしておきたいとする。この場合にはEvernoteのホームページに使用しているWebブラウザ用の機能追加(アドイン)ソフトをインストールしておく。すると、Webの画面上もしくはメニューにEvernoteにコピーする機能が追加される。

これを指定すると、現在見ているページがEvernoteにコピーされる。余分な情報がコピーされる場合があるので、コピーしたい情報を指定して、同様に行うと、その部分だけEvernoteにコピーされる。

マーキングリストなどで有用な情報があれば、コピーしてEvernoteにペーストしてもいいし、先程のEvernote専用のアドレスに転送してもよい。画像やPDFなどのファイルはEvernote用のアプリケーションであれば、ドラッグ&ドロップすれば保存される。また、検索機能も強力で、PDFなどの文章中の文字の検索はもちろんだが、画像によっては画像の中の文字も検索できる。

筆者は、身の回りのありとあらゆる情報をこのEvernoteに保存するようにしている。購入した電化製品のマニュアルをオンラインでダウンロードしたり、通信機器やパッケージソフトのシリアルナンバー、講習会の資料、学会・研究会のプログラム、講演のメモ、参考になったポスターの図表、出張のスケジュール、バスの時刻表、Todoリスト、業務用の書式、アイデア、どこかで使うつもりの小咄などなど。

有料版(年45ドル)になると月当たりの保存容量が500MBと拡大され、マイクロソフトオフィス書類の対応や画像中の文字認識の高度化などのサービスが追加される。それ以外にも多くの情報利用のための機能があるが、本稿では紹介程度としておく。

3. 最後に

今回は、代表的なサービスについて紹介した。さまざまなサービスがクラウド環境で提供されてきており、選択の幅が広がっている。ハードディスクの寿命は大体5年ぐらいで設定されているので、数年使えばいつ使えなくなってもおかしくない。従来、個人が自分の周辺で保存していたデータをネットワーク上に移行することで、利便性や安全性が高まる。しかし、クラウドもやはりビジネスで提供されているので、サービス変更や閉鎖の可能性もある。そのあたりを踏まえて便利に使うことが重要である。

今月のまとめ

- 1, クラウドとは、インターネット上で提供されるサービスである。
- 2, 主なサービスとしてGmail, Dropbox, Evernoteなどがあるが、いずれも情報をネット上に保管し、機種や台数に関係なく利用できる。
- 3, データを自分で保管しなくて良いが、サービスの変更のリスクも考えておかねばならない。